

## ステップ2 地域の目標（将来計画）について話し合ってみよう ～地域でできる棚田保全活動を考える～

□ワークショップなどによって地域の現状と課題の整理ができれば、目標（将来計画）について、次のヒントを参考に実践活動の内容を考えてみましょう。

### 💡 ヒント1 あなたの地域でできることを見つけましょう

- ・無理をせず、長く続けることが大切です。
- ・身近な環境美化活動にみんなで行き始めることからスタートすることも一つの方策です。
- ・実際に活動をしている地域を見に行くと肌で感じられよくわかると思います。

### 💡 ヒント2 ふるさとを想う気持ちを持ちましょう

- ・先祖代々から受け継いできた棚田を守りたい気持ちを大切にしましょう。
- ・就労等により地域外に出て行った人たちに興味を持ってもらいましょう。
- ・みんなで集落を守る気持ちが大切です。

### 💡 ヒント3 農産物で元気になりましょう

- ・昔からあたりまえのように作っていた地域の米が資源となりませんか。（棚田ブランド米）
- ・地域で作っている農産物で元気になりませんか。（みそ、こんにゃく、わさび、そばなど）
- ・郷土料理の伝承を考えてみませんか。



特産品や郷土料理を紹介したパンフレット



商品化された棚田ブランド米



## ヒント4 都市住民や他の集落と交流しましょう

- ・ 棚田を楽しい交流の場としましょう。
- ・ 農作業体験の場として提供してみませんか。
- ・ 農産物を振る舞ったり、販売してみます。  
収益があれば、活動費に充てることで活動の定着につながります。
- ・ 交流活動を通じて地域の応援団をつくってみませんか。
- ・ リピーターの方と毎年会うことによって、親戚づきあいのようになってきます。
- ・ 地域外へ出て行った子供たちが帰ってくれば、地域の活性化につながります。
- ・ イベントによっては、会議室などの施設が必要となる場合があります。  
公共施設は無償で使える場合がありますので利用しましょう。
- ・ 地域行政（公民館や支所）との連携により、効果は大きくなります。

### 〈交流活動の例〉

- ・ 地域外との交流  
棚田オーナー、農作業体験、そうめん流し、もちつき体験、そば打ち体験、しめ縄づくりなど
- ・ 地域内での交流  
盆踊り、スポーツ行事、環境美化活動など
- ・ イベント  
ほたる鑑賞会、棚田ウォーキング、夏まつり、フォトコンテスト、伝統芸能神楽など
- ・ その他  
農産物直売、イノシシ肉の活用（料理）など



農作業体験交流



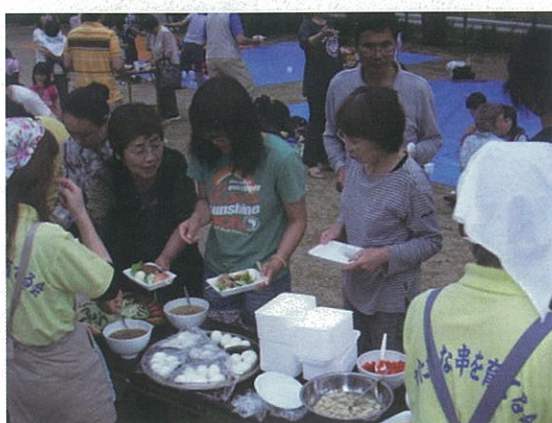
もちつき体験



しめ縄づくり



棚田ウォーキング



ほたる鑑賞会の前に食事を振る舞う



朝市で農産物販売

○さらに、発展させていくと

- ・農産物加工施設の設置
- ・農産物直売所の設置
- ・農家レストランの経営など



【注意】

資金の問題や経営のノウハウなどが必要となるのでステップアップの手法として考えてください

交流活動のポイント

○都市住民等との交流では、「そこで何かをやっている。やろうとしている」というイベント情報を発信することが必要です。

○口コミという手段もありますが、地域の市町にも相談してみましよう。

行政の支援を受けてイベントを開催することや広報誌・ホームページなどに掲載してもらえる場合があります。

○道の駅などにチラシを置くことも効果的です。



## ヒント5 農地の保全管理の手法として山口型放牧があります

○農地の保全管理が難しくなってしまったら、山口型放牧を行ってみましょう。

- ・畜産農家の協力が必要となりますが、簡易な電気牧柵と水飲み場と木陰があれば一般的にはどこでも可能です。
- ・放牧にあたっては、注意点もいくつかありますので、最寄りの農林事務所などへ相談し、地域に合った取り組みを選択しましょう。
- ・復元された農地は、あなたのできる作物を植えるなど有効利用を考えてみましょう。
- ・放牧によって、鳥獣の出没を抑制する効果があると言われています。

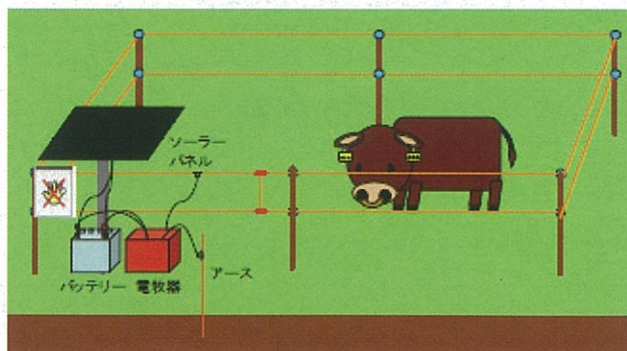


放牧によって管理されている農地

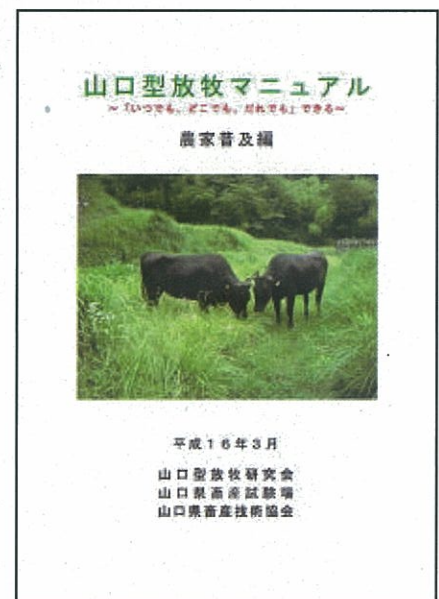
### 山口型放牧とは

中山間地域などの生産条件が不利な地域において、棚田や急傾斜地などの条件を活かした低コストで省力的な飼養管理ができる放牧。

【山口型放牧マニュアル（農家普及編）より抜粋】



電気牧柵設置のモデル図



山口型放牧マニュアル  
(農家普及編)